

1 単元名 9月のかざりを製作しよう

2 単元の評価規準（特別支援学校学習指導要領、図画工作の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・色や形などの造形的な視点に気づき、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるができる。	・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構造をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	・つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

【自立活動の目標】（特別支援学校学習指導要領 自立活動内容6区分27項目より）

3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎 (4)集団への参加の基礎

5 身体の動き (5)作業に必要な動作と円滑な遂行

3 教材のとらえ

児童は、幼いころから自身の生活経験の中で「季節」を感じながら生きてきており、「季節」の変化も自然などの環境から気づきを得て感じることができる。本学級では、4月から毎月制作するカレンダーをはじめ、「さくら」「こいのぼり」「あじさい」「てるてる坊主」「七夕かざり」など季節を感じられる掲示物を制作してきた。

自身の生活の中での気づきを、教室の中で表したり、友だちにみてもらったりすることで、作り出す楽しさや喜びを感じてほしい。

また、自分が作ったものを実際に自然の中でみる経験を経て、五感が刺激されることで、新たな気づきをもって制作意欲を高め、色彩感覚を養うことにもつなげてほしい。

本教材では、「切る」「貼る」「折る」「割く」といった作業を通して、作りたいものに対するイメージを深める経験や微細運動の発達を促していく。



4 単元計画

時	学習内容	学習活動	評価規準
1	秋の生き物を製作しよう。	画用紙でトンボを製作する。 牛乳パックで竹とんぼを製作する。	【知・技】 用具を適切に使うことができる。 【思・判・表】 作るものをイメージしながら、色などを工夫することができる。 【主体的】 集中して製作し、友だちの作品を見ていいところを見つけようとしている。
2	秋のお花を製作しよう。	コスモスの花を製作する。	
3 (本時)	秋の果物をかざろう	ぶどうの実・葉・木の幹を製作する。 製作した秋のかざりで教室を飾り付ける。	

4 本時の指導案

①本時の目標 適切に用具を使い、手順通りに製作に取り組む。

②本時の学習

	学習内容	◎活動 □指示・発問 ・児童の反応	※教師の支援 ☆評価
準備・導入	1 あいさつ・秋の果物クイズ 2. ぶどうゲームをする。	◎あいさつをする ◎秋の果物について考える。 □ヒント1、ヒント2・・・ ◎ぶどうを模した丸い入れ物にポッチャ玉を入れるゲームをする。 □順番を決める。 □机を寄せるよう指示する。	※ヒントを出して、答えがでるようにする ※順番に並ばせる。 ※並ぶところに目張りをしておく。 ※点数を黒板に書く。
	秋のかざりをつくろう！～ぶどうでたのしもう～		

<p>展 開</p>	<p>3. 作り方を確認し、「ぶどう」を製作する。</p> <p>5 作ったものを飾る</p>	<p>□作るときの難しいところなどポイントを確認する。</p> <p>□実の色は紫をいれれば何色を入れてもいいことを伝える。 ・ピンク ・青 ・黄色</p> <p>◎ぶどうをつくる。(土台→実) ・くるくるが難しい ・何個もつくるのが面倒くさい ・はさみでうまく切れない</p> <p>□早くできそうな児童は葉っぱをつくる。</p> <p>◎模造紙にぶどうや前時に制作していたとんぼやコスモスなどを貼る。</p>	<p>※時間を区切り、集中して聞くよう指示する。</p> <p>※手順書(写真付き)を作る。 ※5個程度(様子を見て個数は決める)は自分で作り、それ以外はあらかじめ作っておいたぶどうの実を使ってもいいことにする。</p> <p>☆用具を正しく、使うことができる。(知・技)</p> <p>※難しい部分は、声をかけ手伝いながら一緒に完成を目指す</p>
<p>お わ り</p>	<p>6 片付けをする</p>	<p>◎作業ででたごみや、使った用具をお道具箱に片付ける。</p>	<p>☆道具を片づけることができる。</p>